

資料編

1 地域福祉計画策定組織及び経過

(1) 地域福祉計画策定懇話会委員(令和2年度)

所属	氏名	備考
学識経験者（静岡県立大学短期大学部）	佐々木 隆志	会 長
三島市民生委員児童委員協議会	宮川 紀代美	副会長
学識経験者（常葉大学）	青田 安史	
三島市自治会連合会	内田 新一	
社会福祉法人三島市社会福祉協議会	中村 正蔵	
三島市民間社会福祉施設協議会	杉村 伸一	
三島市子ども会連合会	篠原 誠	
三島市PTA連絡協議会	秋山 恭亮	
三島市老人クラブ連合会	近藤 敏雄	
三島市身体障害者福祉会	下山 隆伸	
三島市手をつなぐ育成会	東方 慶	
三島市保健委員会	杉本 由美子	
公募による市民	渡邊 茂	

(順不同・敬称略)

(2)地域福祉計画庁内策定委員(令和2年度)

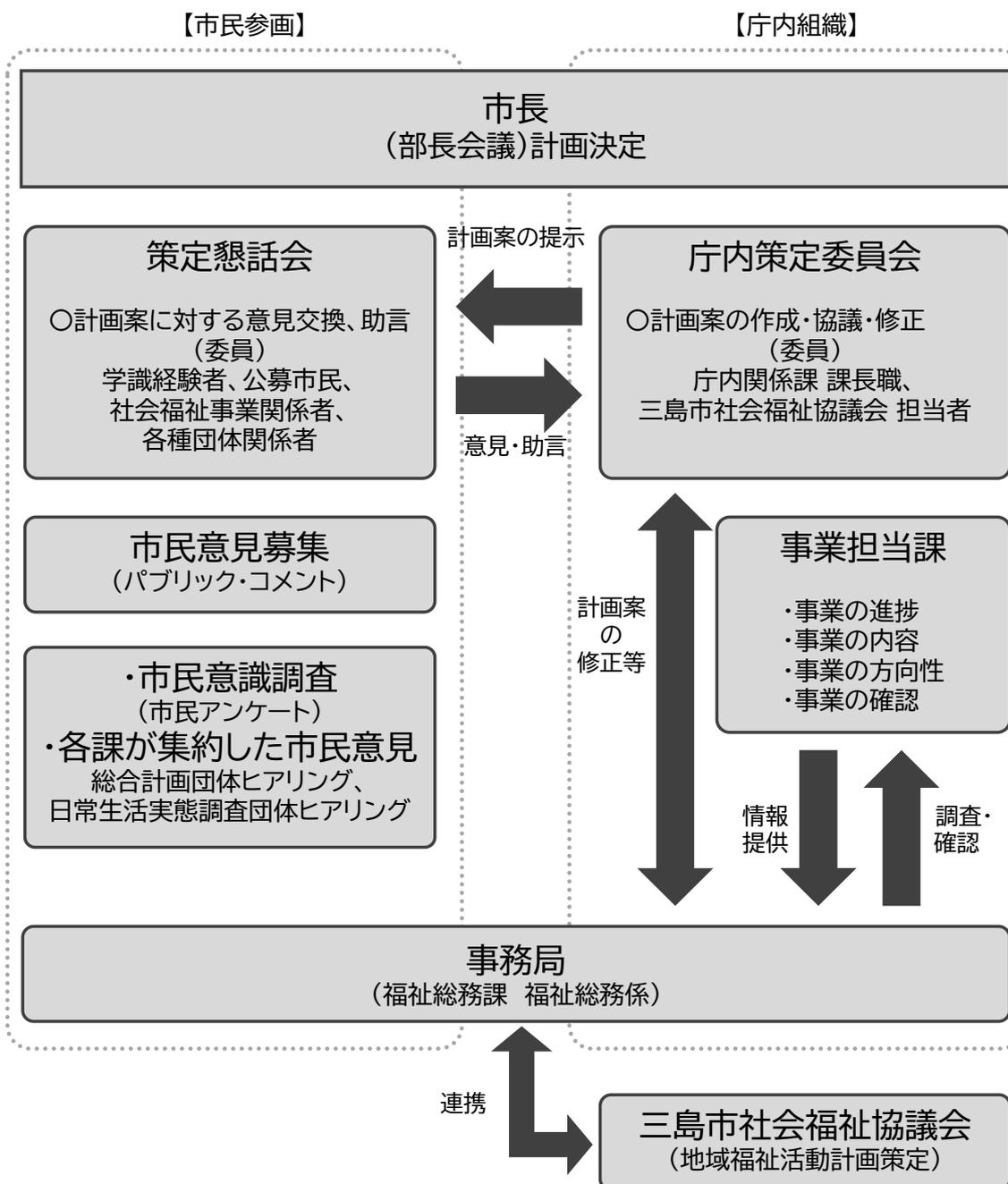
所属		補職名	氏名	備考
社会福祉部		部長	西川 達也	委員長
環境市民部	地域協働・安全課	課長	岩崎 淳子	
健康推進部	健康づくり課	技監(課長)	三枝 知子	
	地域包括ケア推進課	課長	佐野 文示	
	介護保険課	課長	浅見 徹哉	
社会福祉部	福祉総務課	課長	沼上 勝一	
	子育て支援課	課長	渡邊 由美	
	子ども保育課	参事(課長)	臼井 貢	
	障がい福祉課	課長	池田 智美	
	発達支援課	課長	青柳 健	
企画戦略部	政策企画課	課長	鈴木 啓司	
	危機管理課	課長	畠 孝幸	
教育推進部	学校教育課	課長	鈴木 真	
	生涯学習課	課長	若林 光彦	
社会福祉協議会	振興課	課長	米山 英明	
		係長	野口 啓太郎	

(順不同・敬称略)

(3)策定経過

実施時期	実施内容
令和元年12月23日～ 令和2年1月14日	地域福祉計画策定のためのアンケート調査 対象者：2,000人 回収：964人(回収率：48.2%)
令和2年5月12日	第1回 庁内策定委員会
令和2年5月26日	第1回 策定懇話会(書面会議)
令和2年7月14日	第2回 庁内策定委員会
令和2年8月26日	第2回 策定懇話会
令和2年11月6日	第3回 庁内策定委員会
令和2年12月14日	第3回 策定懇話会
令和2年12月23日～ 令和3年1月22日	パブリック・コメントによる意見募集
令和3年1月29日	第4回 策定懇話会(書面会議)
令和3年2月3日	第4回 庁内策定委員会
令和3年3月2日	庁議

(4) 策定体制図



2 地域福祉に関する統計データ

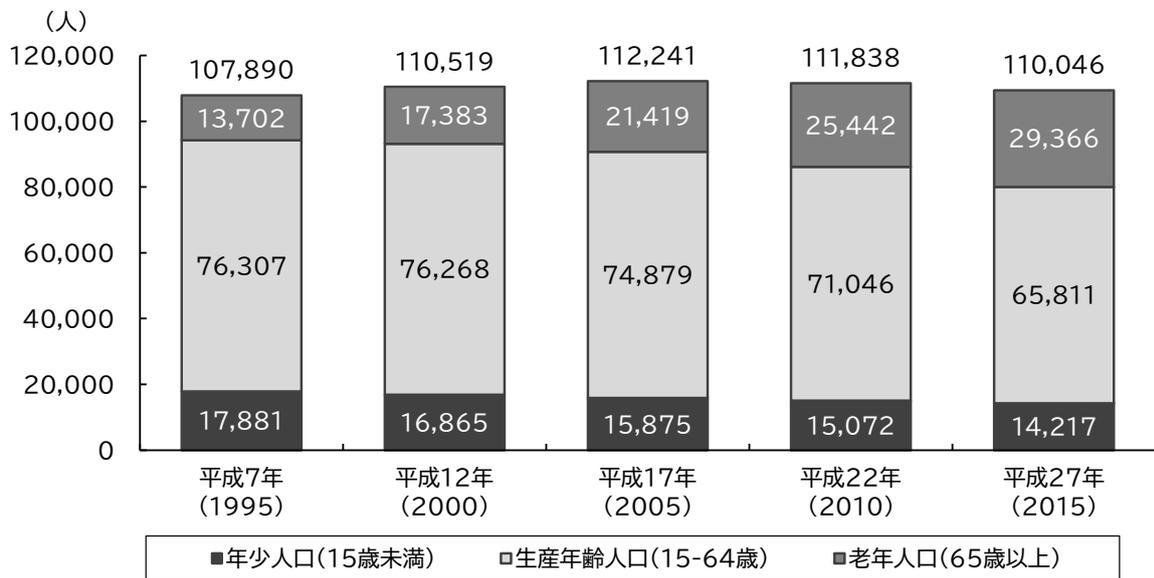
(1)年齢3区分別人口

本市の総人口の推移をみると、平成7年の107,890人から平成17年の112,241人まで増加していますが、平成22年以降はやや減少傾向にあり、平成27年には110,046人となっています。

年齢3区分別にみると、平成27年現在、年少人口が14,217人（12.9%）、生産年齢人口が65,811人（59.8%）、老年人口が29,366人（26.7%）となっています。

平成7年以降、年少人口は減少し、老年人口が増加しており、本市においても少子高齢化が進行しています。

■年齢3区分別人口の推移



単位：人

	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
総人口	107,890	110,519	112,241	111,838	110,046
増減	—	2,629	1,722	▲403	▲1,792
(増減率)	—	(2.4%)	(1.6%)	(▲0.4%)	(▲1.6%)
年少人口 (15歳未満)	17,881 (16.6%)	16,865 (15.3%)	15,875 (14.1%)	15,072 (13.5%)	14,217 (12.9%)
生産年齢人口 (15~64歳)	76,307 (70.7%)	76,268 (69.0%)	74,879 (66.7%)	71,046 (63.5%)	65,811 (59.8%)
老年人口 (65歳以上)	13,702 (12.7%)	17,383 (15.7%)	21,419 (19.1%)	25,442 (22.7%)	29,366 (26.7%)

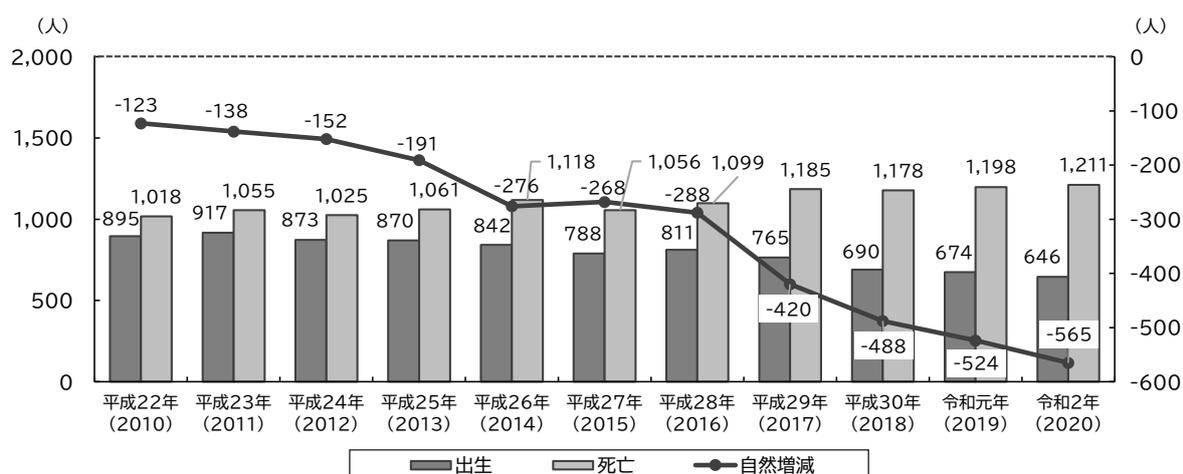
出典：総務省「国勢調査」

(2)人口動態

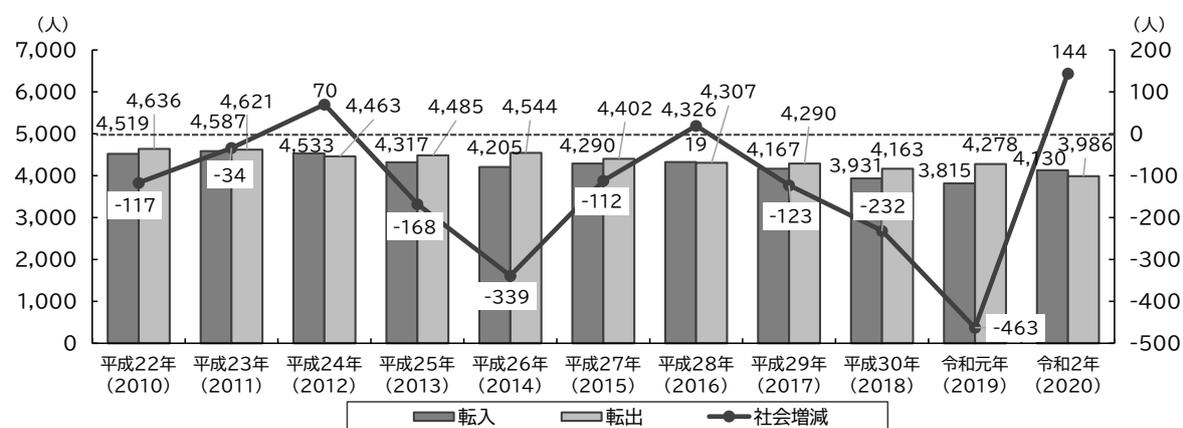
本市の人口動態をみると、自然動態（出生数－死亡数）は、平成22年以降マイナスで推移しており、令和2年は出生数646人に対して、死亡数1,211人と565人のマイナスになっています。

社会動態（転入数－転出数）は、平成22年から令和2年にかけて増減を繰り返しながら推移しており、令和2年は転入4,130人に対して、転出が3,986人と144人のプラスになっています。

■出生数・死亡数の推移



■転入数・転出数の推移



単位：人

	平成22年(2010)	平成23年(2011)	平成24年(2012)	平成25年(2013)	平成26年(2014)	平成27年(2015)	平成28年(2016)	平成29年(2017)	平成30年(2018)	令和元年(2019)	令和2年(2020)
出生	895	917	873	870	842	788	811	765	690	674	646
死亡	1,018	1,055	1,025	1,061	1,118	1,056	1,099	1,185	1,178	1,198	1,211
自然増減	-123	-138	-152	-191	-276	-268	-288	-420	-488	-524	-565
転入	4,519	4,587	4,533	4,317	4,205	4,290	4,326	4,167	3,931	3,815	4,130
転出	4,636	4,621	4,463	4,485	4,544	4,402	4,307	4,290	4,163	4,278	3,986
社会増減	-117	-34	70	-168	-339	-112	19	-123	-232	-463	144

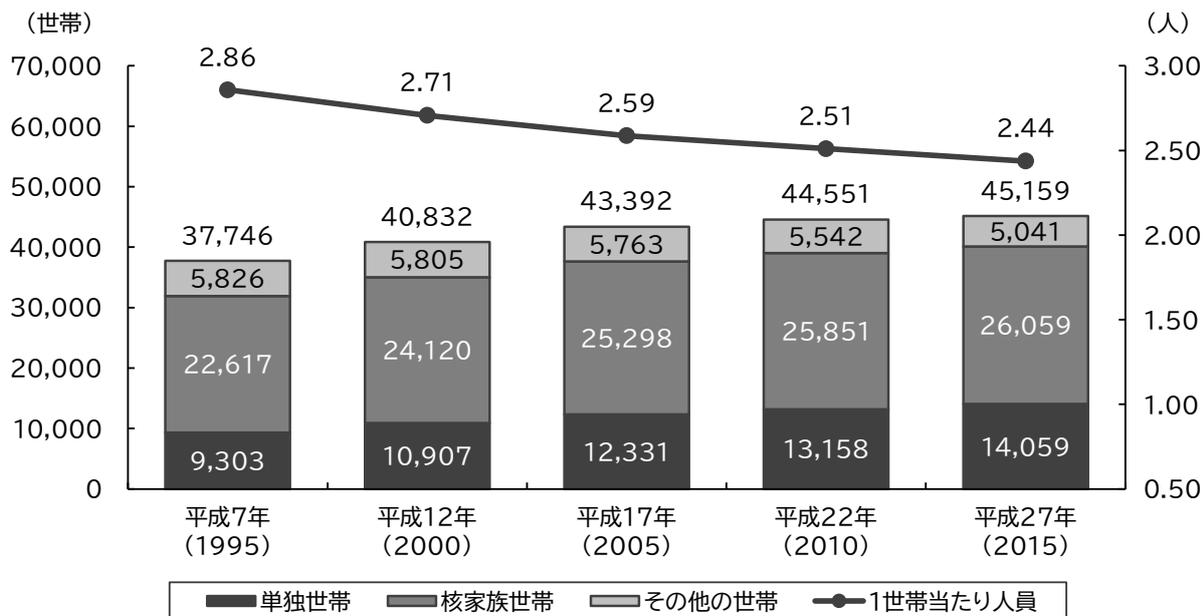
出典：三島市「統計データ」

(3)世帯の状況

本市の世帯数は増加し続けており、平成12年からの15年間で約4,000世帯増加しています。中でも単独世帯の増加率は高く、その他の世帯は減少傾向がみられ、1世帯当たり人員は減少してきています。

また、単独世帯の割合が高く、全体の約3割を占めています。

■世帯類型別世帯数・1世帯当たり人員の推移



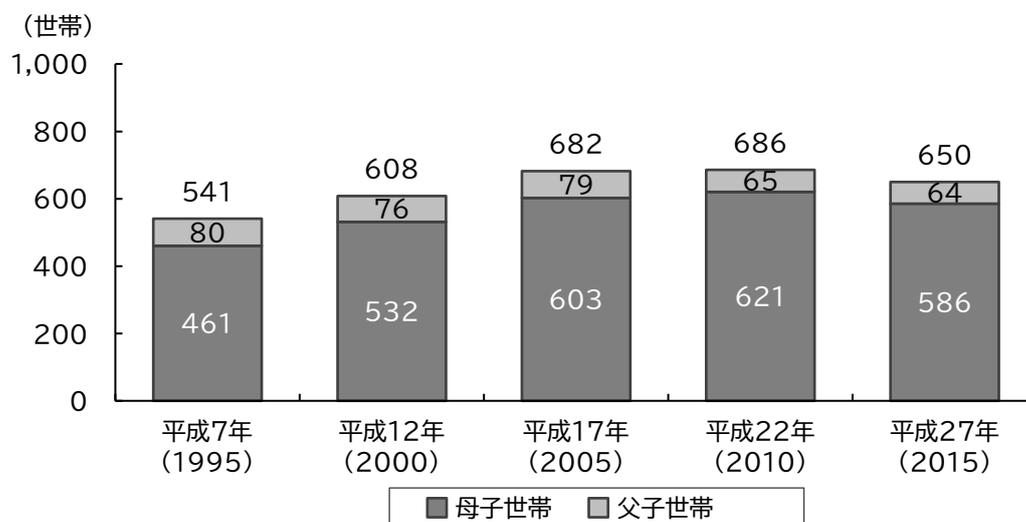
単位：世帯・人

	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
総世帯数	37,746	40,832	43,392	44,551	45,159
増減 (増減率)	—	3,086 (8.2%)	2,560 (6.3%)	1,159 (2.7%)	608 (1.4%)
単独世帯	9,303 (24.6%)	10,907 (26.7%)	12,331 (28.4%)	13,158 (29.5%)	14,059 (31.1%)
核家族世帯	22,617 (59.9%)	24,120 (59.1%)	25,298 (58.3%)	25,851 (58.0%)	26,059 (57.7%)
その他の世帯	5,826 (15.4%)	5,805 (14.2%)	5,763 (13.3%)	5,542 (12.4%)	5,041 (11.2%)
一世帯当たり人員	2.86人	2.71人	2.59人	2.51人	2.44人

出典：総務省「国勢調査」

(4)母子・父子世帯の状況

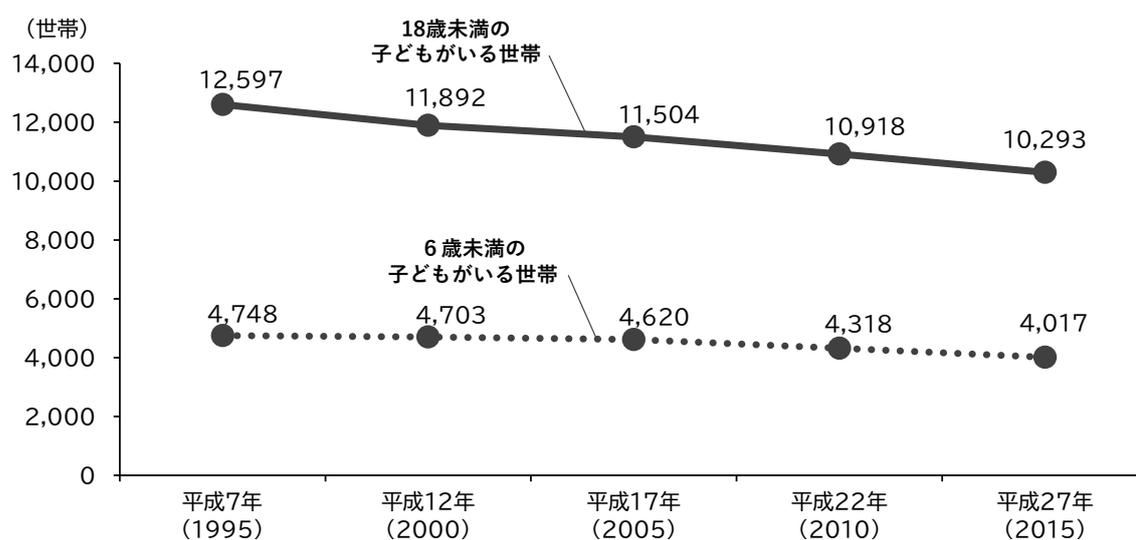
本市の母子・父子世帯数の推移をみると、平成22年まで増加傾向にありましたが、その後減少に転じ、平成27年で母子世帯が586世帯、父子世帯が64世帯となっています。



出典：総務省「国勢調査」

(5)子どものいる世帯

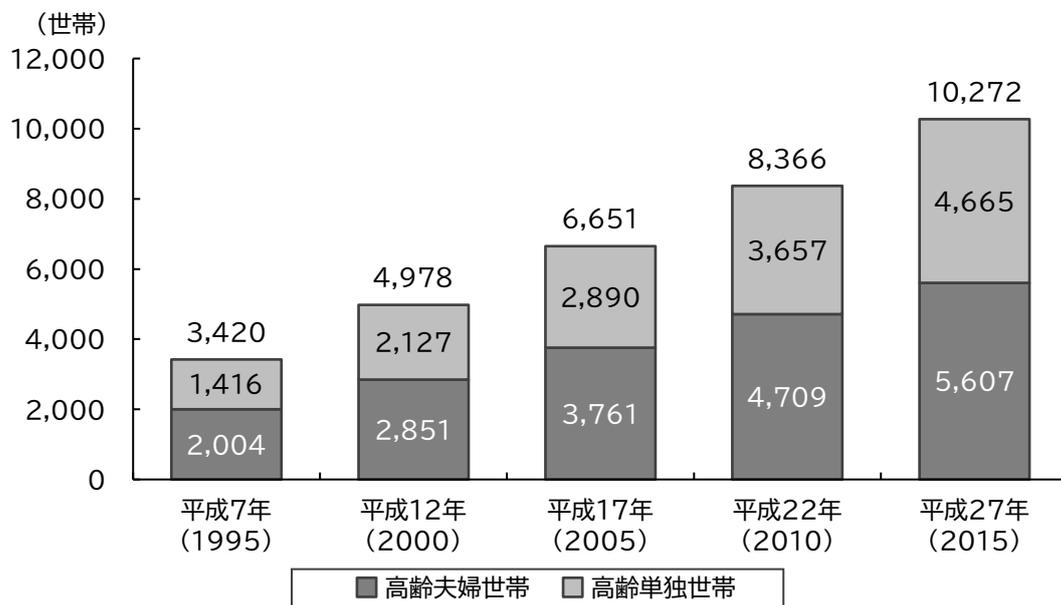
本市の子どものいる世帯の推移をみると、18歳未満の子どもがいる世帯、6歳未満の子どもがいる世帯のいずれも、減少傾向となっています。



出典：総務省「国勢調査」

(6) 高齢者世帯の状況

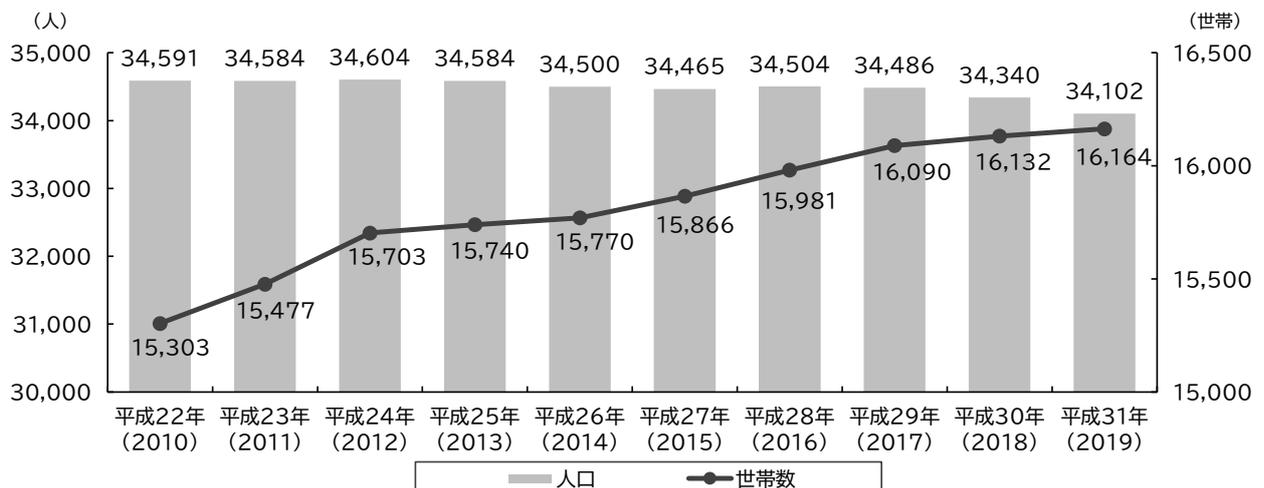
本市の高齢夫婦世帯（夫が65歳以上、妻が60歳以上の世帯）及び高齢単身者世帯は年々増加し、平成27年で高齢夫婦世帯は5,607世帯、高齢単独世帯は4,665世帯となっています。



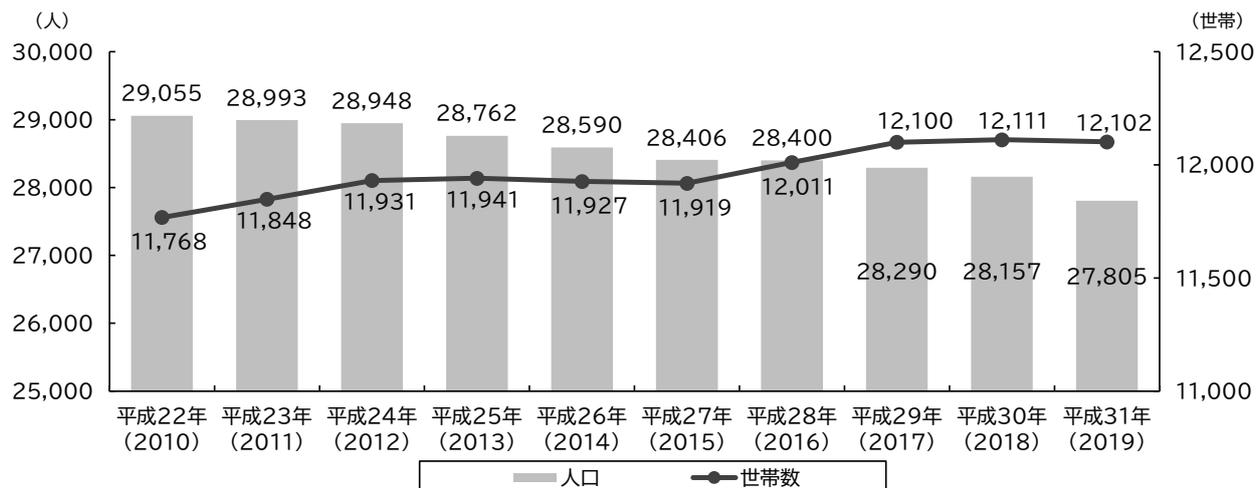
出典：総務省「国勢調査」

(7) 地区別人口の推移

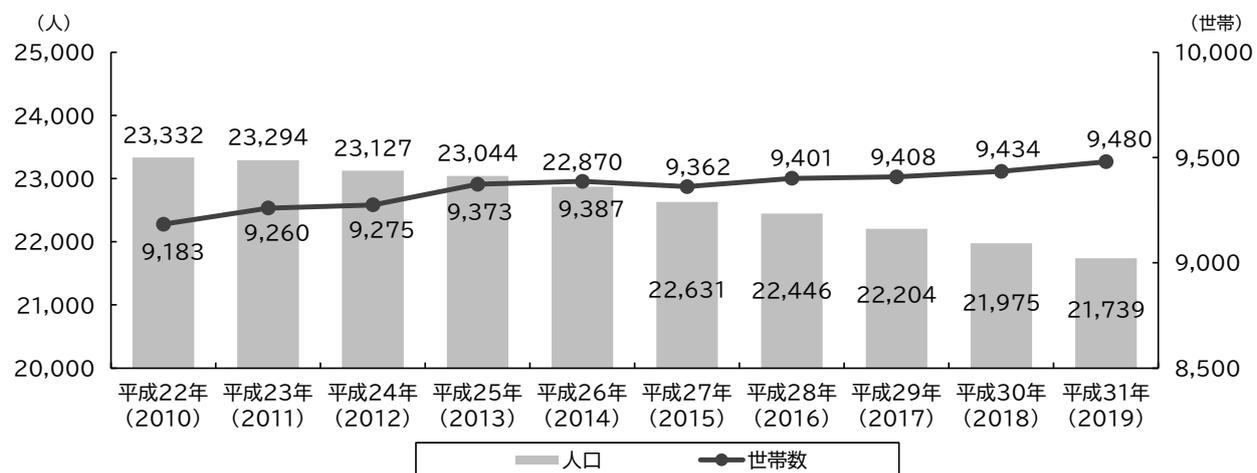
■ 旧市内地区の人口・世帯数の推移



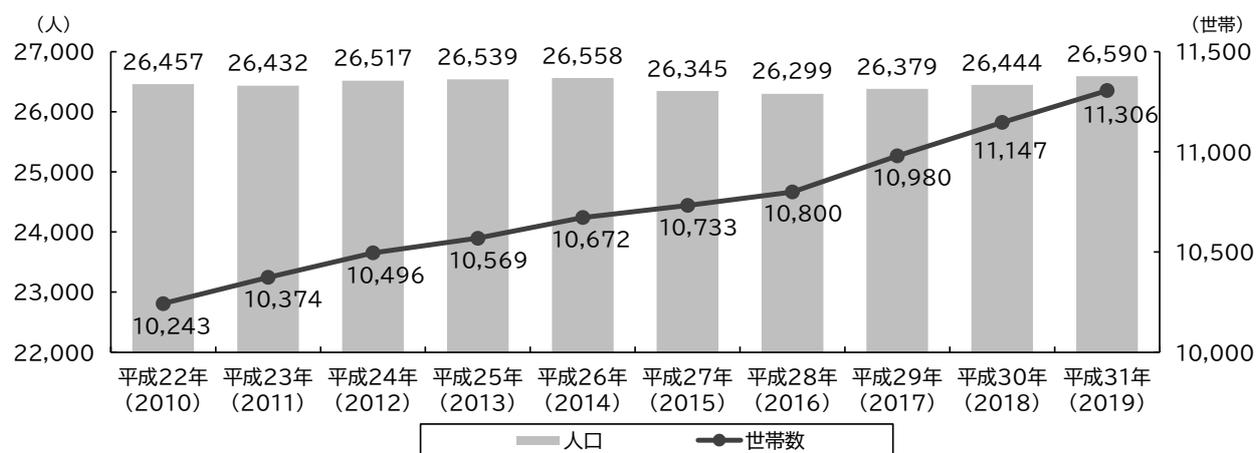
■北上地区の人口・世帯数の推移



■錦田地区の人口・世帯数の推移



■中郷地区の人口・世帯数の推移



出典：三島市「統計データ」 各年1月31日現在

■地区別人口増減

三島市の地区別人口の増減を平成22年と平成31年で比較すると、中郷地区がわずかに増加しているほかは減少していますが、旧市内の減少率は1.41%とほかの地区と比べると低くなっています。

4地区で最も減少率が高いのは、錦田地区で6.83%となっています。かつ1世帯当たりの人員増減率も減少率が最も高い状況です。

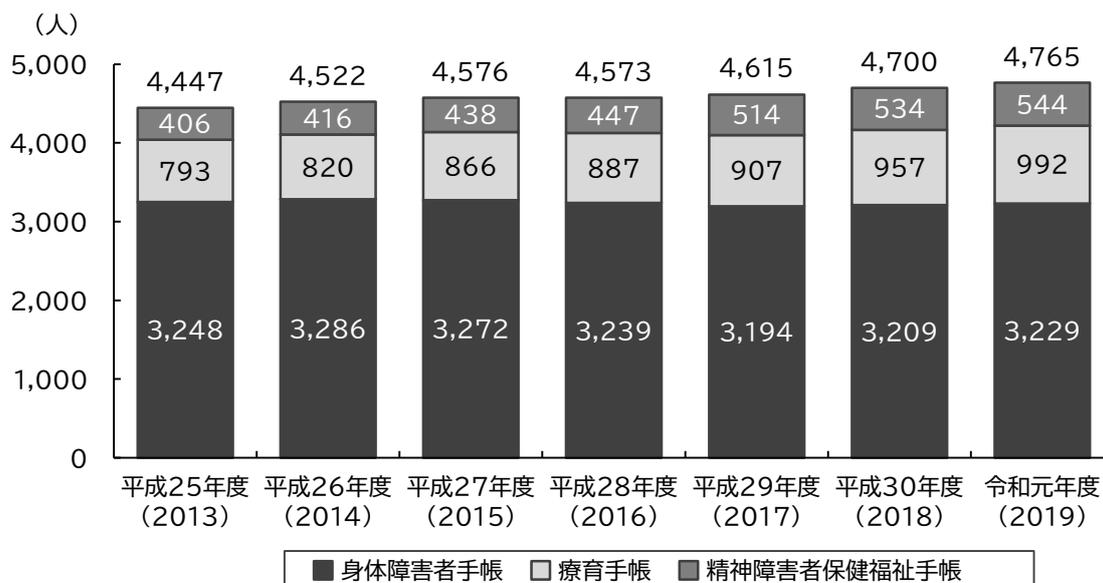
単位：人

	人口		1世帯当たり人員	
	平成22年 (2010)	平成31年 (2019)	平成22年 (2010)	平成31年 (2019)
旧市内	34,591	34,102	2.26	2.11
増減 (増減率)	—	▲489 (▲1.41%)	—	▲0.15 (▲6.67%)
北上	29,055	27,805	2.47	2.30
増減 (増減率)	—	▲1,250 (▲4.30%)	—	▲0.17 (▲6.94%)
錦田	23,332	21,739	2.54	2.29
増減 (増減率)	—	▲1,593 (▲6.83%)	—	▲0.25 (▲9.75%)
中郷	26,457	26,590	2.58	2.35
増減 (増減率)	—	133 (0.50%)	—	▲0.23 (▲8.95%)

出典：三島市「統計データ」 各年1月31日現在

(8)障害者手帳の交付者の推移

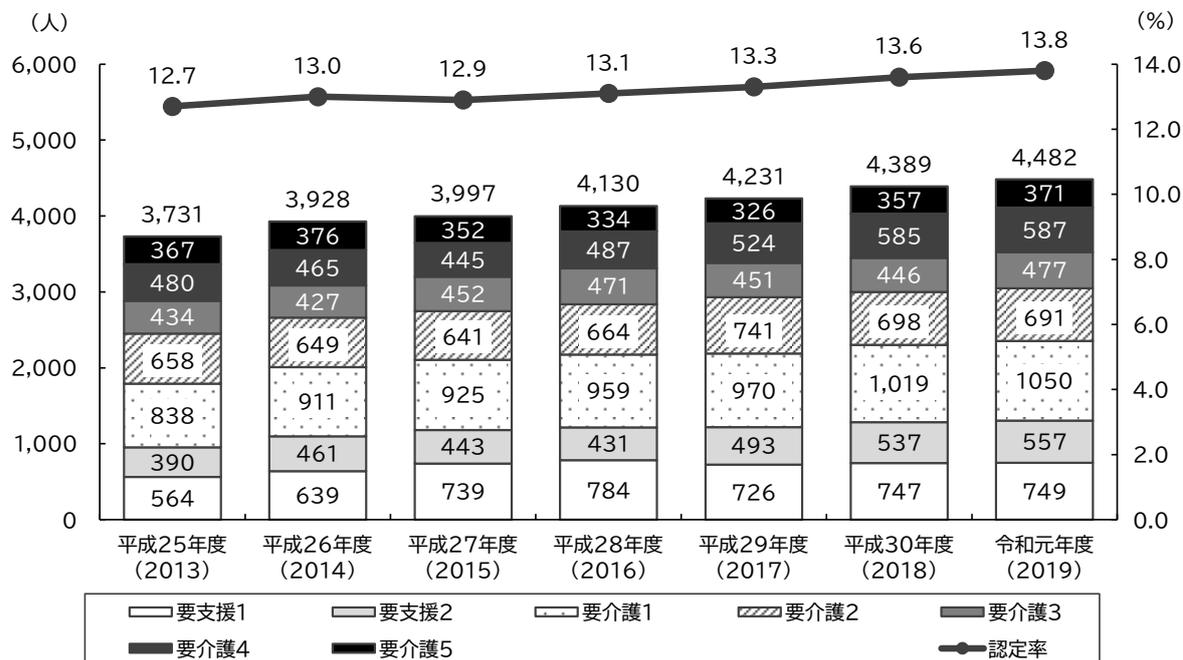
本市の障害者手帳の交付者は、全体では増加傾向で推移しています。手帳の種類別で見ると、身体障害者手帳交付者は横ばいで推移している一方、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳交付者は全体に占める割合は大きくありませんが、増加傾向となっています。



出典：三島市「統計データ」

(9) 要支援・要介護認定者数の推移

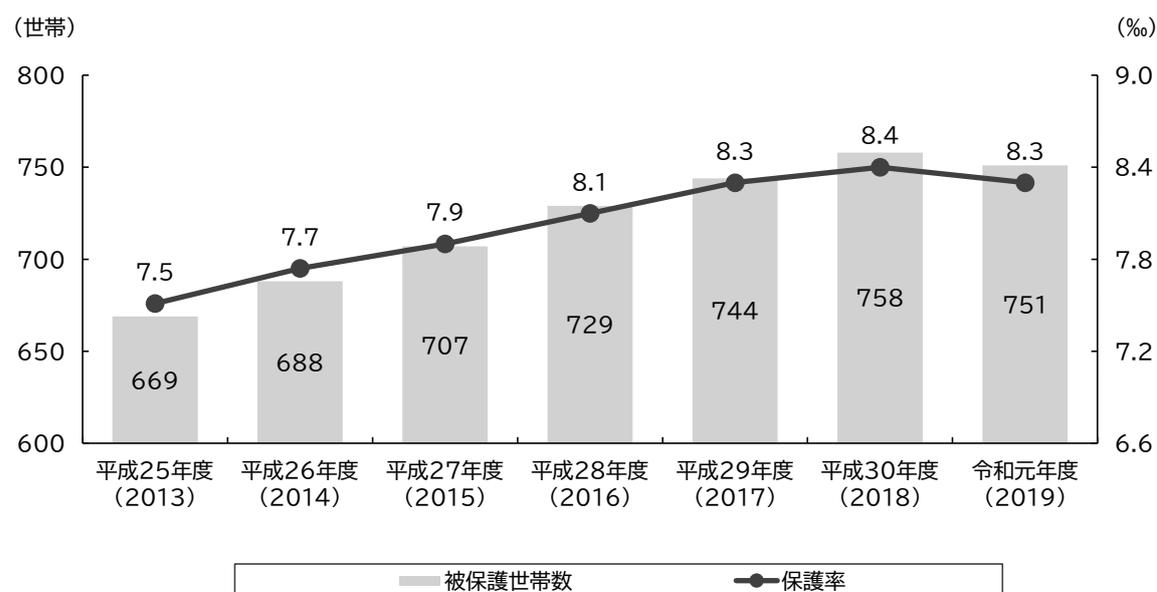
本市の要支援・要介護認定者数、認定率はともに、高齢者の増加に伴い増加傾向で推移しています。



出典：三島市「統計データ」

(10) 生活保護受給世帯数・生活保護率の推移

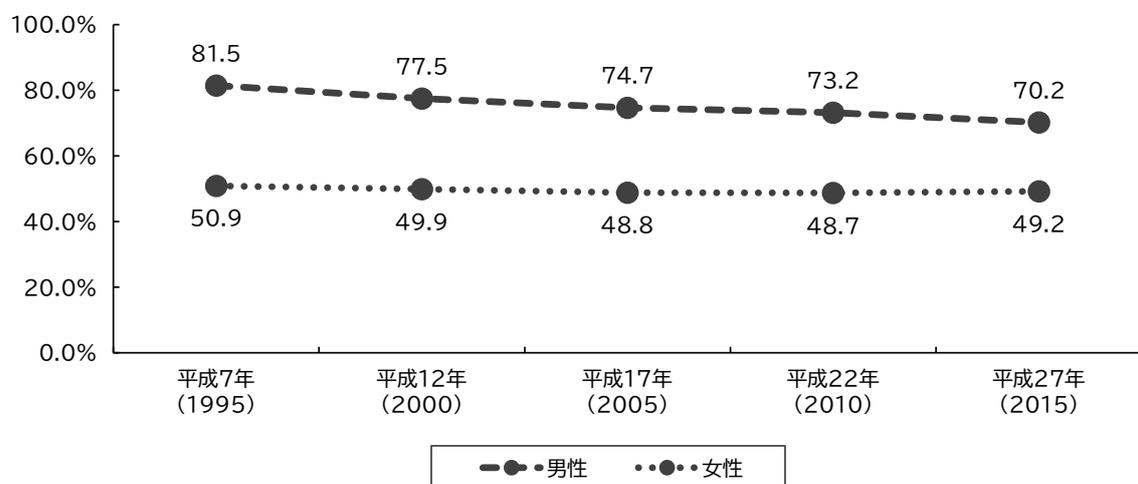
本市の生活保護受給世帯数及び生活保護率は平成30年度にかけて増加傾向で推移していましたが、令和元年度に減少し、751世帯（8.3%）となっています。



出典：三島市「統計データ」

(11)労働力率

本市の労働力率は、男性は平成7年からの減少傾向で推移し、女性も同様に減少傾向でしたが、平成27年に増加に転じています。



出典：総務省「国勢調査」

3 市民アンケート調査結果

(1)調査の目的

この調査は、日頃の市民の近所付き合いや、地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、日常生活で感じていることなどの意見等を収集し、「第4次三島市地域福祉計画」及び「第4次三島市地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするものです。

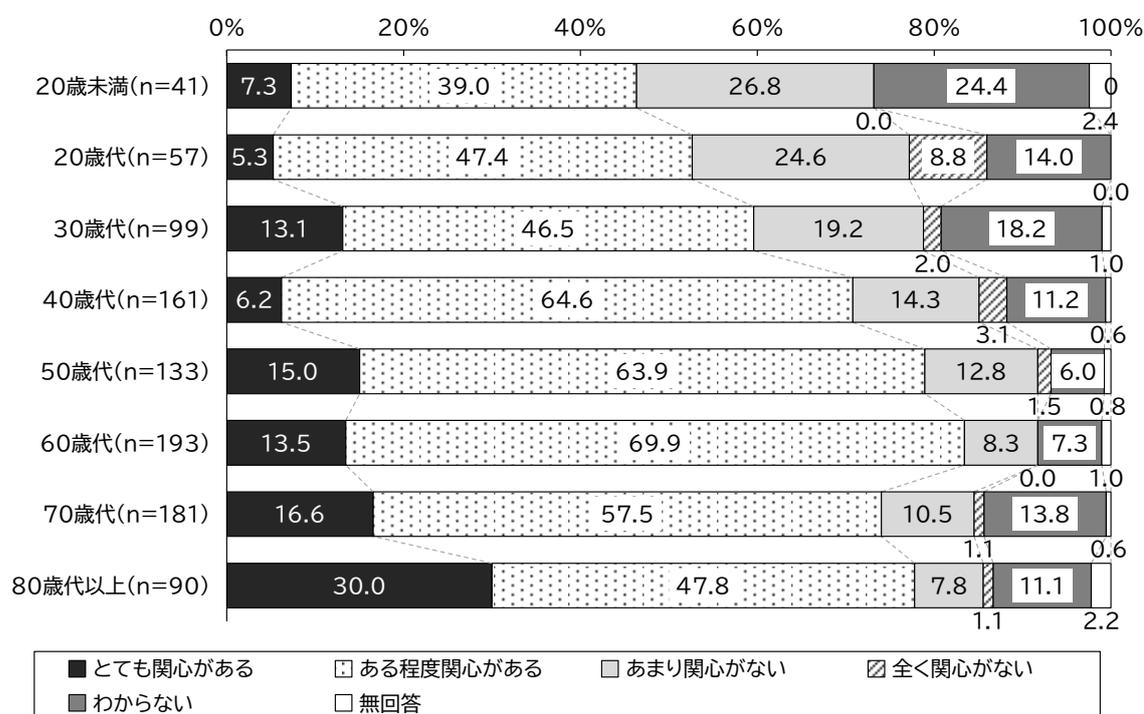
(2)調査の方法

- 調査対象者：無作為抽出による15歳以上の市民2,000人
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：2019年12月23日～2020年1月14日
- 配布・回収状況：

配布数	回収数	回収率
2,000票	964票	48.2%

(3)調査の結果(一部抜粋)

■福祉への関心度合



●福祉への関心について、「あまり関心がない」の割合は年齢が若いほど高く、反対に「とても関心がある」との回答は、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向がみられます。

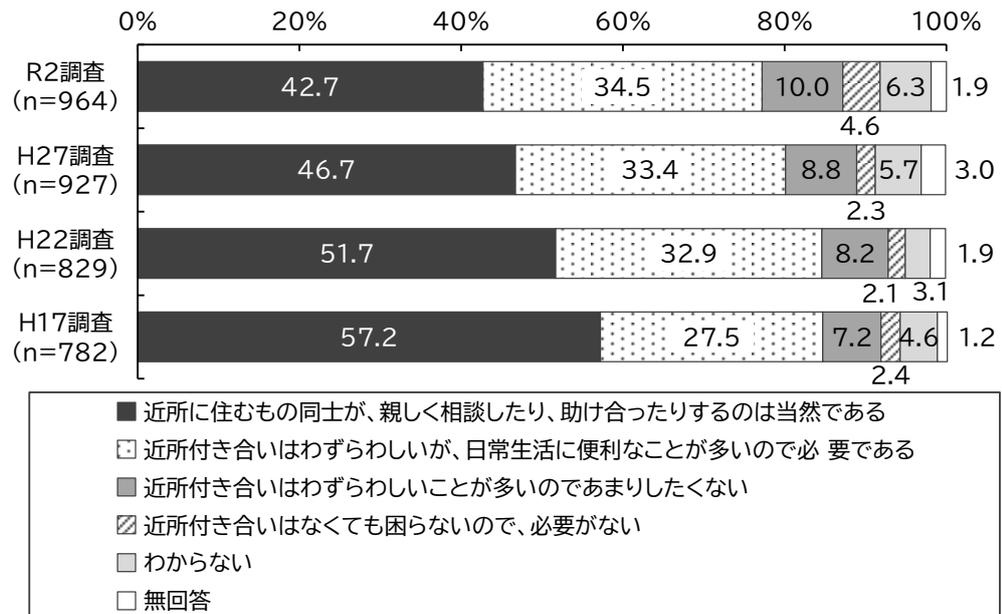
■福祉への理解を深めるために必要な機会

単位：％

	福祉の制度やサービス、理念や考え方について学ぶ機会	介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりする機会	手話や点字、介護・介助方法などを習得する機会	住民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合う機会	ふだんから身近に感じられるよう、子どもの頃から福祉について学ぶ機会	お祭りや地域のイベントなど、地域住民が集まる場での啓発の機会	その他	特に必要はない	無回答
全体 (n=964)	38.7	29.8	13.3	25.1	43.8	16.6	2.9	6.6	3.3
男性 (n=399)	40.9	26.1	10.3	22.3	38.8	15.3	2.8	9.3	2.8
女性 (n=547)	37.3	32.0	15.7	26.7	48.1	17.9	3.1	4.6	3.7
20歳未満 (n=41)	36.6	22.0	31.7	9.8	43.9	12.2	2.4	7.3	4.9
20歳代 (n=57)	47.4	26.3	21.1	15.8	50.9	15.8	3.5	8.8	3.5
30歳代 (n=99)	26.3	21.2	18.2	19.2	64.6	22.2	3.0	7.1	4.0
40歳代 (n=161)	36.0	29.2	11.8	18.0	56.5	23.0	3.7	5.0	3.7
50歳代 (n=133)	51.1	34.6	15.0	15.8	51.9	15.0	1.5	2.3	2.3
60歳代 (n=193)	41.5	34.7	14.0	27.5	41.5	15.0	3.6	4.1	1.6
70歳代 (n=181)	36.5	28.7	6.1	37.0	28.7	14.4	1.7	12.7	3.9
80歳代以上 (n=90)	32.2	28.9	7.8	40.0	17.8	12.2	4.4	7.8	4.4

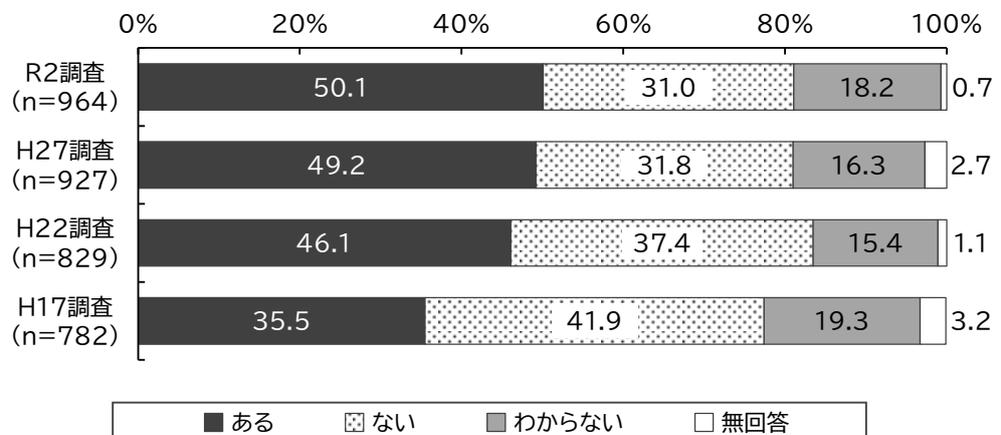
- 福祉への理解を深める機会について、30歳代では「ふだんから身近に感じられるよう、子どもの頃から福祉について学ぶ機会」の割合が6割を超え高く、70歳代以上で「住民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合う機会」の割合がほかの年齢層に比べ高くなっています。
- 「福祉の制度やサービス、理念や考え方について学ぶ機会」と回答している割合は全年代で大きな差がありません。

■近所付き合いに対する考え方



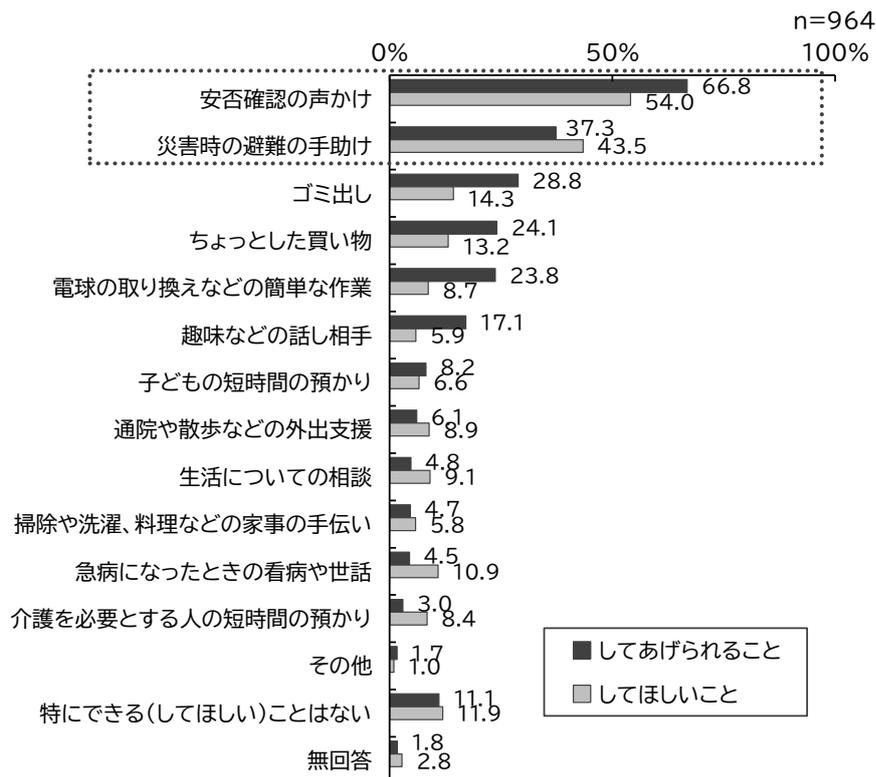
- 「近所に住むもの同士が、親しく相談したり、助け合ったりするのは当然である」と回答した割合が、平成17年の調査では57.2%ですが、令和2年の調査では42.7%まで減少しています。

■福祉サービスの必要性を身近に感じたこと



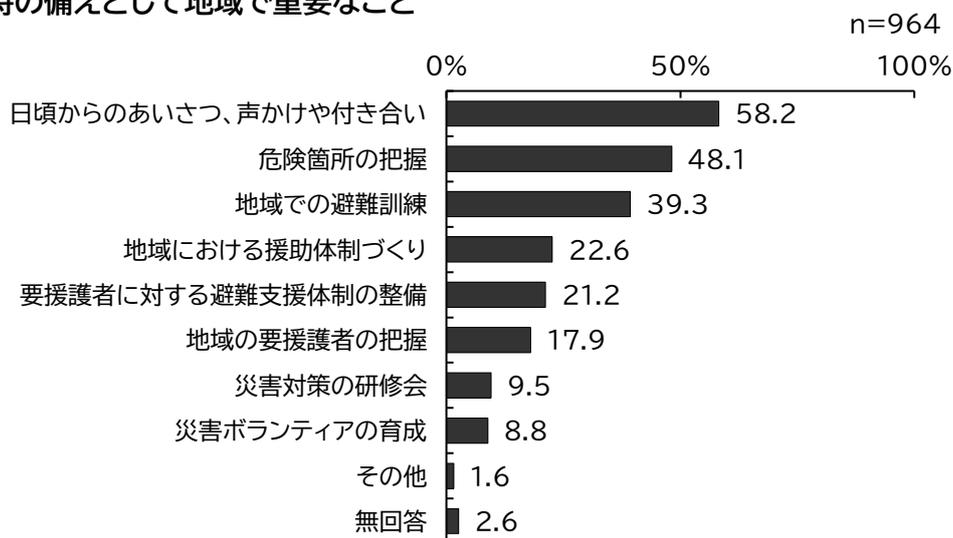
- 「ある」と回答した割合が、平成17年の調査では35.5%ですが、令和2年の調査では50.1%まで増加しています。

■困っている人にしてあげられること、してほしいこと



●困っている（人がいる）ときにしてあげられること（してほしいこと）について、どちらも「安否確認の声かけ」、「災害時の避難の手助け」の割合が高くなっています。

■災害時の備えとして地域で重要なこと

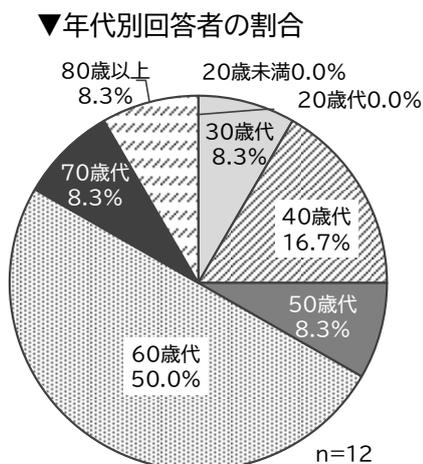


●災害時に重要だと思う備えについて、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が58.2%と最も多く、次いで「危険箇所の把握」が48.1%、「地域での避難訓練」が39.3%、「地域における援助体制づくり」が22.6%、「要援護者に対する避難支援体制の整備」が21.2%となっています。

■地域の福祉に関する意見や要望(自由意見・地区別)

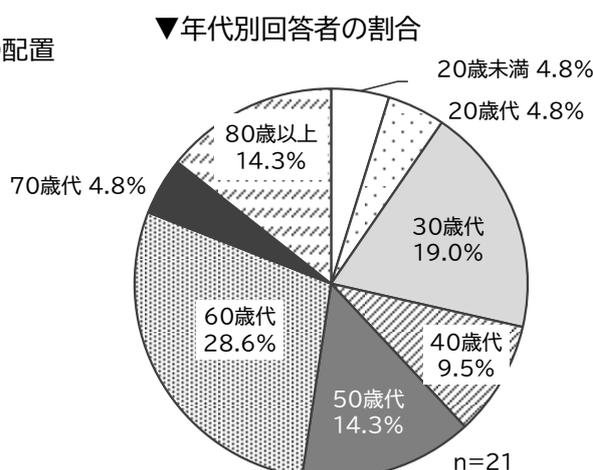
旧市内地区(西部地区)

- ・三島の人々は穏やかで優しい人が多い印象
- ・空き家が増えた
- ・一人暮らしの家への訪問、声かけなどが必要
- ・隣に住んでいる人のことも分からない
- ・困ったときの相談先が分からない



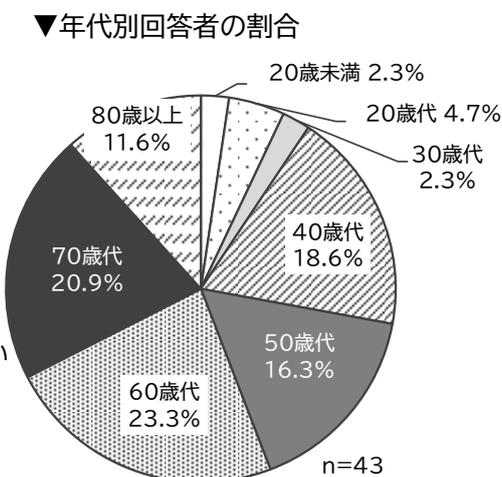
旧市内地区(中部地区)

- ・加茂川町祇園橋付近の歩道を整備してほしい、あぶない
- ・高齢、障がい、児童3分野の連携と、専門性の高い職員の配置
- ・老老介護となり気持ちがふさぎがち
- ・福祉情報の周知不足
- ・認知症の相談先をあらかじめ知っておきたい
- ・発達支援に対するサポートが手厚く助かっている
- ・障害者手帳所持者への助成制度を充実してほしい
- ・保育園を増やしてほしい



旧市内地区(東部地区)

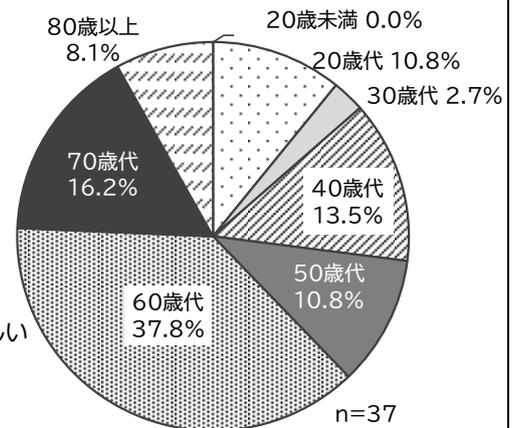
- ・高齢者に対する公共交通機関の体制づくり
- ・子育てママや高齢者への各種講座などのイベントを開催してほしい
- ・要支援2の親の介護で手一杯で、地域のことまで考えられない
- ・福祉のことがよく分からない
- ・サロンなどの居場所づくりの充実をさらに進めていただきたい
- ・高齢者福祉・支援についてどこに相談したらいいか全く分からない
- ・独居老人や障がい者のための福祉版救急センター(電話対応)の創設
- ・一人暮らしの高齢者が増えているので、地域の見守りなど充実してほしい
- ・介護認定されずデイサービスが利用できず、集まれる居場所がない
- ・気軽に相談できる場所を多く設置してほしい
- ・「広報みしま」での福祉サービス・社協事業の周知をお願いしたい



北上地区

- ・福祉活動に気軽に参加できる仕組みがあるとよい
- ・町内会レベルの組織のコミュニケーションが一番大切
- ・車いすでも安心して移動できる歩道の整備・確保
- ・高齢者増で北上号などの小さな車の巡回を考えてもらいたい
- ・福祉と医療の包括的な連携が必要
- ・働く母には保育園のサービスが十分ではない
- ・もっと地域福祉に関心・知識をもつような機会を増やしてほしい
- ・交通が不便、移動販売車の巡回など検討してほしい
- ・北上地区では新築が増え、若い世代が増えたような気がする
- ・市の中心だけでなく、各地区のつながりができるような方法を検討してほしい
- ・祖父や両親世代はともかく、30代の世代はよそよそさを感じる地区
- ・地域の福祉を高めるような雰囲気がない
- ・より体系的に一括で福祉サービス情報が得られるシステムが必要
- ・地域の活動に協力、参加したいが機会がない
- ・近所の困りごとを小さな会合で話し合う機会がある
- ・社会福祉は世代間で考え方が大きく異なる
- ・近所付き合いは、災害や緊急時の助け合いのためにも必要

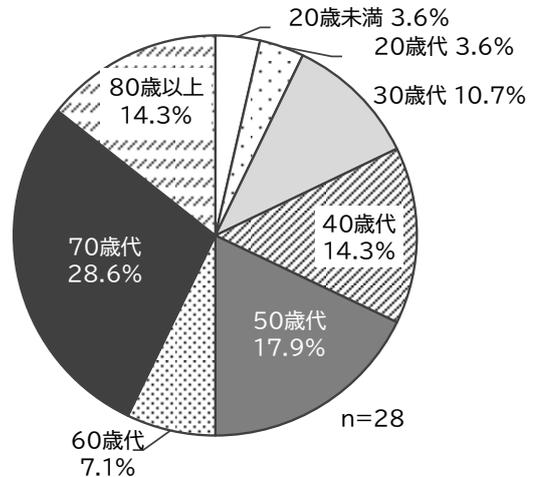
▼年代別回答者の割合



錦田地区

- ・中心地から遠く、桜ヶ丘は坂道、100円バスを運行してほしい
- ・交流機会が減っているので気軽に交流できる場が必要
- ・バス停は遠く回数も少ない、地域のバスが欲しい
- ・三恵台団地内の道路の舗装工事をお願いしたい
- ・福祉の機会を利用するのに、ややハードルが高いと感じる
- ・ボランティア頼みは事故など懸念点があるので、地域活動拠点の活用も必要
- ・地域寄り合い処や子育てサロンなどで魅力ある地域活動が展開できると思う
- ・交流が少なく地域の高齢世代が何を求めているのか分からない
- ・障がい児・者対象の運動会、遠足の開催を希望
- ・老人ホーム入所者への保育園・幼稚園児の訪問
- ・できる範囲で参加、協力したいと思う人は多いと思う
- ・老人会がない
- ・身近に感じて相談しやすく熱心に見守りしてくれる民生委員がいる
- ・地域の福祉を知る機会がもっとあるとよい

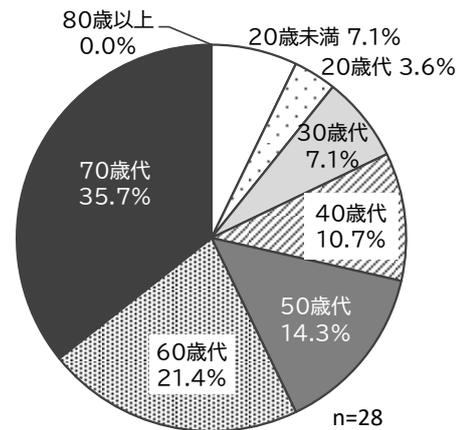
▼年代別回答者の割合



中郷地区

- ・子育て支援の拡充
- ・社会福祉協議会の活動周知に力を入れてほしい
- ・個人情報への取扱いには注意してもらいたい
- ・災害・避難情報をもっと欲しい
- ・地域のつながりは必要だと思うが、地域役員は避けたいのが本音
- ・総合病院へ向かうバスがなくて不便
- ・高齢化が進む三島市では、情報提供やサービスの充実が必要
- ・地域に支えられたことがないのでボランティアに興味がない
- ・「福祉」という言葉が曖昧で分かりにくい
- ・声をあげられない人の情報収集に積極的になってほしい
- ・相談できる窓口があることをもっとアピールしてほしい

▼年代別回答者の割合



4 事業所ヒアリング調査結果

(1)調査の結果

本調査結果は、『三島市子どもの生活実態調査』に係る事業所ヒアリング調査（2019年1月実施）の結果及び『第5次三島市総合計画』策定に係る事業所ヒアリング調査（2019年3～6月実施）の結果から、地域福祉計画に係る内容を抜粋、整理したものです。

分野	現状と課題
子育て関係	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会で地域愛をもった子どもが育つことで、将来の自治会を担う存在になる ・自治会と相互に情報共有できる場が必要 ・三島ならではの教育を推進してほしい ・障がいや不登校などの子どもへの専門的サポート体制を整備するなど、多様性を尊重した教育を進めたいが、専門家の手厚いサポートや支援員の増員が困難である ・地域と学校の連携によるボランティア参加が進まない ・誰でもどこでも教育を受けられる環境の整備がさらに求められる
高齢者関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や老人クラブへの未加入者が増加している ・高齢者の就労機会の提供が必要である ・地域で団体の垣根を越えた気軽に集える“話し合いの場”が必要である ・日頃からの挨拶や行事（イベント）を開催し、地域住民同士のコミュニケーションを取る場づくりを進める必要がある ・高齢者が南北の往来がしやすいバス路線の見直しが必要である ・高齢者が積極的に活動するためのコーディネーター人材が必要である
障がい者関係	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所を市民誰もが集い活動できる場所、居場所としてほしい ・誰もがストレスなく外出できる社会づくりが必要である ・地域における交流の場づくりが必要である ・駅前再開発に合わせて駅前に市役所、相談ブースの設置、障がい者が運営するカフェやレストランなどの活動の場を提供してほしい ・車を利用しなくても外出に不便がないよう公共交通の充実が必要である ・各種相談窓口（機関）の横の連携が不足している ・農福連携を図るも、障がい者が働きやすい工夫、技術指導者の不足、障がい者の技量と作業内容のマッチングなどが課題である ・歩道が狭く、障がい者にも優しいまちづくりが必要である
不登校・貧困関係	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室が遠く利用できない実情があり、送迎支援やサテライト型の実装が求められる ・福祉サービスが命綱となっている家庭に対しては、手厚いサービスが求められる ・子ども食堂をはじめ、市内に親も子どもも安心して頼れる居場所が必要 ・放課後の居場所づくりで学習支援の機会が増えるとうい ・生活保護受給家庭の子どもほとんどが、進学に興味を抱けていない ・発達支援センターを拠点として情報共有ができるネットワークを構築できるとよい ・子どもと保護者への支援は、保育園、保健師、学校とのネットワークが重要 ・昔ながらの地域力（見守り等）があれば、重篤状態になる前に助けられるかもしれない ・スクールソーシャルワーカー、子育て支援課、家庭児童相談室、警察署が日頃から連携し情報共有する体制の構築が必要

分野	現状と課題
医療・健康関係	<ul style="list-style-type: none"> ・2次救急医療圏域の各救急病院が疲弊している ・単身、老老世帯の増加と介護サービスの受皿のアンバランスな状態である ・サービス付き高齢者住宅が増加し、医療介護の実施状況等の把握ができていない ・ひとり親の増加、貧困化、高齢出産によるダブルケアなど子育て環境の問題が増えている ・各救急病院の災害医療体制をさらに充実させる必要がある ・障がい者のケアが家族、施設、福祉課、一部の医師などに限局されている ・稀に、極端にむし歯が多い子どもがおり、第三者サポートが必要である ・フレイル対策に力を入れている ・高齢化が進む中、スポーツによる健康づくりの市民への浸透が弱い
地域の活動団体や環境関係	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもがひきこもりがちにならないよう、教員側が地域の資源を活用するスタンスが必要である ・施策を複合的に捉えて取り組む必要がある ・公園や、広場、街中の道路沿いのスペース等をより市民が使いやすい必要がある ・外国人や障がい者など、さまざまな人が楽しく交流できる場があるとよい ・地域を越えた出会いをつくる場が必要 ・地域の活動団体同士で出会う場が必要 ・高校生～定年前までの層が集まれる場所や機会が必要である ・子どもの社会教育と地域教育の場と、高齢者の活躍の場が組み合った場づくりが必要 ・行政と地域団体がともに問題解決する体制が必要である ・独居老人への見守りや外出への支援が必要である
防災関係	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃から防災の意識を高めることが必要 ・防災関連の行事を楽しむ工夫が必要 ・個々の家庭で簡単に取り組める防災の仕掛けが必要 ・自主防災会がなく、人材が育たない ・学校における防災関係の取組の継続的な実施体制の整備が必要

5 第3次計画の評価・点検結果

基本目標1 地域福祉への関心と市民参加を高める意識づくり

1 地域福祉への関心・理解の促進

施策名	事業数	事業数合計
(1) 地域福祉計画の周知	1	7
(2) 福祉教育を学ぶ機会の提供	3	
(3) 差別や偏見の解消	3	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
6 (※)	6	0	0	0	6	0	0	0

(※) 再掲となる事業は差し引いています。

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	●各種イベントや講演会、研修会の開催や子どもたちへの福祉教育の推進により、福祉に対する理解の促進や人権、差別問題の解消に向けて取り組んでいるため、いずれも「達成」としています。
今後の方針	●福祉意識の普及啓発は、継続的な取組が必要であり、取組を継続することから、いずれの事業も「継続」としています。

2 地域でふれあう機会の創出

施策名	事業数	事業数合計
(1) 世代間の交流機会の提供	5	13
(2) 地域で行うお祝い会の開催支援	2	
(3) 交流拠点の整備や拡充	6	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
13	12	1	0	0	13	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	●保育園や学校、福祉施設や集会所などを利用し、子どもから高齢者まで多世代間で交流できる機会を創出しているため、ほとんどの事業が「達成」としています。 ●「生涯学習推進事業・生涯学習事業」では、『生涯学習まつり』の実施体制に課題があるほか、『夏休み子どもイベント』の参加者数増加への対応が難しい状況であるため、「一部達成」としています。
今後の方針	●参加者の募集やイベント内容の工夫、関係機関との連携を図りながら取り組んでいくため、すべての事業が「継続」としています。 ●「生涯学習推進事業・生涯学習事業」では、『生涯学習まつり』の運営面で各団体の自主性を向上させる必要があるほか、『夏休み子どもイベント』では、日数を減らして規模を縮小して継続していくこととしています。

3 地域活動やボランティア活動への支援

施策名	事業数	事業数合計
(1) 市民の新たなチャレンジへの助成	3	13
(2) 地域で取り組まれている活動への支援	4	
(3) 既存団体への助成	6	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
13	12	0	0	1	10	1	0	1

(※) 「今後の方向性」は終了している事業があるため、対象事業数は12となります。

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●市民や地域の活動を補助事業や情報提供等で支援し、地域の活性化に努めているため、ほとんどの事業で「達成」としています。 ●「市民主体のまちづくり活動費補助事業」は、一定の成果が認められたことから、平成29年度で「終了」としています。 ●「eコミュニティまちづくり事業」では、「達成」としていますが、『地域SNS』のアクティブユーザーがいないことが課題となっているため、『地域SNS』サービスを終了し、民間のご近所『SNS「マチマチ」』へ移行するとともに周知に努めています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●地域福祉の推進を図るべく、今後も地域活動を継続して支援していくために、ほとんどの事業で「継続」としています。 ●「地域コミュニティ活動事業補助事業」では、補助金の交付方法（交付年数及び金額）の見直しを図るため、「見直し」としています。 ●「子育て支援団体等活動費補助事業」では、市民自ら子育て支援活動に取り組む風土が醸成されたことから、目的が十分果たされていると捉え、令和元年度に「廃止」としています。

基本目標2 地域をつなぎ福祉基盤を充実する仕組みづくり

1-1 相談体制の機能強化

施策名	事業数	事業数合計
(1) 相談体制の連携強化	8	16
(2) 民生委員・児童委員活動の周知	1	
(3) 公的相談窓口の充実	7	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
16	15	1	0	0	15	1	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉に関わるさまざまな市民の悩みや不安に対応するため、子育てや障がい、高齢者、生活困窮、外国籍対応など多岐にわたる福祉相談窓口を設置するとともに、福祉の総合相談窓口を設置し、適切な担当課や関係機関へつなげる体制づくりに努めているため、ほとんどの事業では「達成」としています。 ●「不登校対策事業」では、相談体制の充実が図られてはいるものの、来室数が減少しているため、「一部達成」としています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き関係課、関係機関との連携を維持しながら、相談体制の充実を図るべく事業のほとんどが「継続」としています。 ●「地域包括支援センター運営事業」では、高齢者人口の増加に対応するため、地域包括支援センターの増設の検討を含めた相談体制のさらなる充実を図るため、「見直し」としています。

1-2 情報提供の充実

施策名	事業数	事業数合計
(1) 福祉制度やサービスの周知	1	6
(2) 多様な手段による情報提供	4	
(3) 情報のバリアフリー化の推進	1	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
6	6	0	0	0	6	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉制度や各種サービスの周知を図るために、広報をはじめさまざまな媒体を活用して発信しているほか、音声化や点字化を進めるなど情報提供の充実に取り組んでいるため、すべての事業で「達成」としています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も適切な情報発信に努めるために、すべての事業で「継続」となっています。

2 福祉サービスの提供体制や質の充実

施策名	事業数	事業数合計
(1) 個別計画の適正な進行管理	1	7
(2) 適切なサービスを選択する支援	2	
(3) 苦情、要望に対する誠実な対応	4	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
7	7	0	0	0	7	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	●福祉の個別計画の着実な進行管理を行うとともに、成年後見制度や日常生活支援事業などの利用促進を図り、苦情に対する適切かつ迅速な対応体制の充実を図っているため、すべての事業で「達成」としています。
今後の方針	●個別計画の進捗状況の確認を行い、施策・事業の推進によるサービス提供の向上を図るために、すべての事業で「継続」としています。

3 地域での支え合いやネットワークづくり

施策名	事業数	事業数合計
(1) 地域課題の情報共有の場づくり	1	8
(2) 横断的な情報共有体制の推進	5	
(3) 孤立しがちな高齢者等の見守り	2	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
8	6	2	0	0	7	1	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地域課題を地域で検討し、解決を目指すための会議の開催支援や本部の設置支援、さらには地域におけるネットワーク機能の強化を図るべく、各事業を推進しているためほとんどの事業は「達成」としています。 ●「地域づくり市民会議事業」では、地域づくりコーディネーターの養成に努めていますが、コーディネーターの能力向上が不十分であることから、「一部達成」としています。 ●「認知症高齢者見守り事業」は、登録者数が増加しているものの、周知が不足している部分もあるため、「一部達成」としています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民や関係団体等が、意見や情報交換のできる機会づくりを支援するとともに、各会でも出された意見に対する適切な対応が図られる体制の構築に努めるべく、ほとんどの事業で「継続」としています。 ●「地域づくり市民会議事業」では、地域コミュニティ連絡会の開催方法を見直し、より充実した地域づくりコーディネーターの育成に努めていくことから、「見直し」としています。

4 福祉に携わる人材の育成・確保

施策名	事業数	事業数合計
(1) 養成講座の開催	3	6
(2) 民生委員・児童委員研修の支援	1	
(3) 将来を見据えた組織、人材の確保	2	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
6	3	2	0	1	3	3	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域での見守りや協議会リーダーの育成、身近な相談先である民生委員・児童委員の資質向上など、地域づくりの担い手の育成・確保に努めており、3つの事業で「達成」としています。 ● 「地域安心サポーターの養成」では、地域の活動の担い手となる人材の発掘やニーズの再検討を行う必要があることから、「一部達成」としています。 ● 「地域づくりコーディネーターの確保」では、地域づくりコーディネーターの養成に努めているところですが、十分な養成に至っていないことから、「一部達成」としています。 ● 「生活支援コーディネーターの確保」では、市域を担当する第1層生活支援コーディネーターと社会福祉協議会に委託する第2層生活支援コーディネーターとの協働により、今後さらに関係団体との連携強化に努め、地域住民とともに地域課題の解決策を探していくことから、「生活支援コーディネーターの確保」は「終了」としていますが、新規事業として継続します。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、地域活動と地域の安全・安心を確保する取組の一環として、担い手の確保と育成に努めるべく、3つの事業で「継続」としています。 ● 「地域安心サポーターの育成」では、地域で不足している人材の把握と担い手となる人材の現状を把握し、かつ新たな人材育成システムを検討するべく「見直し」としています。 ● 「地域づくりコーディネーターの確保」では、コーディネーターの能力・技術において個人差があることから、技術向上のための研修会開催を検討するべく「見直し」としています。 ● 「生活支援コーディネーターの確保」では、活動及び地域活動を行う組織や団体の把握とそれら団体からの相談の受け付け及び個別での支援を行うなど、連携を一層強化していくことから、「見直し」としています。

基本目標3 健康で安全・安心に暮らせる環境づくり

1 地域防災力の向上

施策名	事業数	事業数合計
(1) 配慮が必要な方の迅速な避難支援体制の構築	2	6
(2) 福祉施設との災害時協定の締結	1	
(3) 防災意識の啓発や自主防災組織への支援	3	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
6	6	0	0	0	6	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	●自主防災をはじめ、地域での防災活動を学校や市民団体等と連携して支援するとともに、福祉避難所の整備や避難行動要支援者の把握と迅速に救助できる体制づくりに努めるべく、すべての事業で「達成」としています。
今後の方針	●市民の防災意識の高揚や自主防災組織の活動支援を行うなど、地域防災力の向上を図るために、すべての事業で「継続」としています。

2 犯罪や交通事故から市民を守る活動の推進

施策名	事業数	事業数合計
(1) 防犯活動の推進	3	6
(2) 子どもの安全確保	2	
(3) 交通安全に対する啓発	1	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
6	6	0	0	0	6	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	●地域における犯罪の未然防止に向けた防犯教室の開催や、子どもの安全確保に向けたスクールガードなどのボランティア活動の活性化を支援するほか、市全体で子どもを見守る子ども安全連絡網の整備を行うなど、すべての事業で「達成」としています。
今後の方針	●防犯や子どもの安全確保を日常から進めていくべく、警察や地域、学校と連携した活動を継続していくために、すべての事業で「継続」としています。

3 誰にもやさしい生活環境の整備

施策名	事業数	事業数合計
(1) 心のバリアフリーの推進	1	8
(2) 公共施設のバリアフリー化	3	
(3) 高齢者や障がいのある人の移動手段の確保	3	
(4) 聴覚障がい者との意思疎通の支援	1	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
8	6	1	1	0	8	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●心のバリアフリーを学ぶ体験学習機会の創出をはじめ、さまざまな場面でのバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を推進し、障がいのある人から高齢者、外国人まで誰もが暮らしやすい、利用しやすい環境づくりに取り組み、ほとんどの事業が「達成」としています。 ●「ユニバーサルデザイン推進事業」は、車いすと自転車が安全にすれ違うことができる幅員の確保を計画的に推進していますが、すべての道路整備は完了していないことから「一部達成」としています。 ●「超低床ノンステップバス導入補助事業」は、事業者の申請がないため「未実施」としています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが利用しやすい道路や施設、設備の整備を計画的に進めていく必要があることから、すべての事業が「継続」としています。

4 住民の生きがいと健康づくり

施策名	事業数	事業数合計
(1) 「スマートウエルネスみしま」の推進	1	8
(2) 地域で行う健康づくり	2	
(3) スポーツを通した生きがいや健康づくり	2	
(4) 高齢者等の生きがいや社会参加の支援	3	

事業数	進捗状況				今後の方向性			
	達成	一部達成	未実施	終了	継続	見直し	縮小・休止	廃止
8	7	1	0	0	8	0	0	0

項目	進捗状況と今後の方針の主な内容
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●市民参加を目的として、健康づくりやスポーツ・運動、生きがいづくりへのさまざまな取組を推進し、また、市民参加と健康づくりを総合的に取り組む「スマートウエルネスみしま」を推進するために、ほとんどの事業が「達成」としています。 ●「生涯学習事業（指導者登録紹介事業）」は、依頼件数の増加を図るべく、需要がありそうな組織・団体（家庭教育学級など）への周知の拡大が必要であることから「一部達成」としています。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の健康づくりと社会参加は今後も継続して取り組む必要があることから、すべての事業が「継続」としています。